



2003年11月10日

日本応用心理学会ニュースレター

——コミュニケーションの広場——

No. 9

理事長に就任して

日本応用心理学会 理事長 岡村 一成

本学会では設立以来、理事長（会長）は大会当番機関の代表者（大会準備委員長）が、その任にあたって参りましたが、この度の会則改正で、理事長の任期は3年とし、常任理事の互選により選出されることになりました。この最初の理事長として私が選出されましたことは、身に余る光栄であるとともに、大変戸惑を感じている次第です。この重大な任務を全う致すには、役員の方をはじめ、会員の皆様方のお力添えがなければ、到底成し遂げられるものではございません。ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、伝統ある本学会の良さは、特定分野に偏らない、幅広い領域の研究者や実務家が家庭的雰囲気の中で、自由に議論し、交流が図られていることにあると思っております。私はこの良き伝統を引継ぎ、さらなる発展を目指したいと願っております。それには若手研究者が魅力を感じ、積極的に参加できる場（環境）が必要です。他学会で行われている良いところを見習いながら、本学会独自の若手研究者支援の施策を考え、推進していきたいと思っております。もちろん、核となる熟年会員の皆様方のご協力がなければ成り立ちません。よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

また、私は1995年から本学会の活動を活性化させるために導入された、認定「応用心理士」制度をもっと活用する必要があると考えております。私はこの制度の発足当初からかかわった関係で思いがあります。「応用心理士」の資格認定は、個人や集団の心理学的指導に努力している会員に、応用心理学の専門職としての資質があることを認め、社会的地位を承認するための一助とすることを目的に制定されたものです。同時に学会活動の活性化として、資格認定を目指し、年次大会の研究発表や機関誌への投稿論文の増加、研修会開催により会員のレベルアップなどを図る。また、認定料の収入を機関誌発行回数、学会賞・奨励賞の創設、年次大会開催補

助費の増額、若手研究者支援などに活用しようと考えられていました。現在222名の会員が「応用心理士」の認定を受けておりますが、社会的に承認されるためには、社会で活躍されている多くの会員が取得されることにあります。資格条件を満たしていながら、まだ「応用心理士」資格を取得されていない会員の皆様には、ぜひ取得していただきたくお願い申し上げます。そして、応用心理士の認定料収入を若手研究者の支援や学会活性化のために、有効に活用していきたいと願っております。



それから、昨年日本応用心理学会倫理綱領の作成を精力的に進めていただいておりますが、本年の大会で審議承認され、制定される運びとなりました。倫理綱領作成委員会発足時の田中昌人委員長、その後を引継ぎ、まとめて完成させていただきました藤田圭一委員長はじめ、ご尽力いただきました委員の先生方に心から御礼申し上げます。本学会会員は、応用心理学に関係するあらゆる分野のルールを遵守し、すべての人びとの基本的人権および尊厳を認め、諸活動の対象となる人びとの生命・人権・人種等を尊重し、もってわが国の文化・福祉・平和の向上発展に貢献しなければなりません（倫理綱領前文抜粋）。会員の皆様は制定されました「日本応用心理学会倫理綱領」を遵守され、研究者としての倫理観を高めてくださいますようお願い致します。

以上、理事長就任にあたり、考えの一端を述べ、ご挨拶に代えさせていただきます。

（東京富士大学経営学部教授）

第70回大会を振り返って

大会会長 森下 高治

秋が深まる今日この頃、会員の皆様には益々お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

去る9月5日、6日両日にわたり流通科学大学で開催致しました第70回大会は、初秋とは言え少し暑い気候でしたが、15名の名誉会員の先生方をはじめ会員の皆様、それに非会員、臨時会員、ご招待の方、総勢500余名の方が来学され盛會裡に終えることができました。ご出席の皆様には、ようこそ神戸にお越し戴き本当に有難うございました。

丁度70回と言う節目の大会で、昨年に引き続いて学会研修委員会企画の研修会が開催されました。日本大学名誉教授の大村政男先生からは、「人格心理学と臨床心理学」、桃山学院大学教授の西川一廉先生から「職務満足研究からライフ・スタイル研究へ」についての研修会にふさわしい講義があり、受講された会員からはこれからの自らの研究にとって、また応用心理学を一層理解をするのに大変よい研修であったとの感想が寄せられました。また、今大会は中央労働災害防止協会、兵庫県、神戸市社会福祉協議会の後援を戴いたことから三つの大会準備委員会企画のシンポジウムも好評でした。

特別記念講演は、著名な生命科学者の中村桂子先生による「生きものとしての人間復興—生命誌の視点から—」、先生はご講演の終わりに平安時代の堤中納言物語を出され、そのなかの短編集の「蟲愛づる姫君」について取り上げられました。「蟲愛づる姫君」は、チョウが大好きな姫君に対して、隣の別の姫君は、チョウになる毛虫を箱の中で飼っていてその毛虫が「かわいい」と言うので、両親や女房たちが心配したと言う話です。実は、その姫君は「この毛虫をよく見つめていると、時間がたつとあのきれいなチョウに変わることから、毛虫の中にはチョウになるすばらしさが入っているゆえ本質を究明すること、真を愛することが大切である」ことに注目したわけです。11世紀の時代に命、生命の大切さ、すばらしさを既に取り上げていたことは、生の人間そのものにアプローチする応用心理学を専攻する私たちに実に示唆に富む話でありました。

一方、特別招待講演では宗教哲学者の中島尚志先生から「宗教とテロリズム—オウム真理教集団を中心として—」の講演があり、宗教は、本来的には人間の生きる規範を根底か支えるものであり、生命活



動の根源は「自己保全本能」であるとの話を出されました。そして、社会の仕組みが、神の不在の「理性」とか「合理性」によってガチガチに構築されてくると、実は何一つ価値を生み出さない批判意識が社会的な力を持つようになり、これがオウムを生んだ社会的背景であると指摘され、オウムは、インドの中期密教、後期密教、その教義を取り入れたチベット密教を巧みに取り入れた宗教集団と結論づけられました。しかし、密教教義は、途上にある教義であるために、オウム真理教にしても、またイスラム教にしても宗教の未熟さがテロリズムに走るとの中島先生の大会の最後を飾る招待講演でありました。

次に、発表論文はポスター発表が93、口頭発表は37、ワークショップが9を数え総計139（ポスターは2件取り消し）の発表があり、活発に議論がなされました。

今大会は、若手研究者のワークショップを本学の岩崎・銅直講師の方で企画しましたところ、特別に参加して戴いた島田修先生（川崎医療福祉大学）、コーディネーターの永田俊代先生（関西学院大学）、それに院生を中心とする多くの若手研究者がセミナーハウスに泊まって、夜遅くまで活発な意見交換があり、翌日の発表も含め実りあるワークショップとなりました。

また、一日目の新神戸オリエンタルホテルで行いました懇親会は、和やかな雰囲気のもと150名の皆様が参加され会員同士、非会員もふくめ研究発表やシンポジウムの話題に花が咲き出席の皆様によるよい交流の場となりました。ご来賓の関西福祉科学大学長の篠置昭男先生からは、祝辞として日本応用心理学会が細分化された心理系学会を統合する役割を担うよう期待するとのお話があり、また、大阪労働

衛生総合センターの伊地知副所長からは労働の安全衛生面に応用心理学会がより一層の貢献をして戴きたいとの期待を込めたお祝いの言葉を頂戴致しました。閉宴の前に来年の71回大会準備委員長である日本大学商学部の嘉部先生からのご挨拶、続いて再来年開催校の福島学院大学の大会事務局長の玉井先生からもご挨拶を戴きその後、話はつきませんでした閉会となりました。

大会運営にあたって今大会は、すべてボランティア

ア学生で運営致しましたため、一部教育が行き届かず、失礼なことも多々あったかと思えます。何卒ご容赦ください。

最後に、この度の70回大会を記念して大会準備委員会から学会に若手研究者育成のための基金を寄付させて戴くことになりました。運用については、いずれご案内があるかと思えます。では、来年の71回大会の再会を期して！ 御礼とご報告まで。

(流通科学大学教授)

2003年度日本応用心理学会第70回大会総会において次の方が名誉会員に推選されました。

秋山 俊夫氏 福岡教育大学名誉教授
 稲毛 教子氏 東京国際大学名誉教授
 坂野 登氏 神戸親和女子大学文学部人間科学科教授

日本応用心理学会 第71回大会のお知らせ

日本応用心理学会第71回大会準備委員長
 嘉部 和夫

第71回大会は日本大学商学部でお引き受けすることになりました。皆様には御存じのことと思いますが、本学会は、日本大学心理学研究室創始者の渡辺徹先生が1946年に第1回大会を日本大学で開催されて以来続いて参りました。本学で引き受けるに当たり、大会の歴史を顧みましたところ、渡辺徹先生が1954年に第18回大会をお引き受けして以来、丁度50年間、日本大学で開催していないことがわかりました。心理学研究室のある文理学部ではない私ども商学部ではありますが、日本大学の心理学関係者を募り準備委員会を組織し、この大会をお引き受けすることを決断致しました。大会の日程等は下記の通りです。

日 程：2004年9月4日(土)～5日(日)

会 場：日本大学商学部キャンパス(東京都世田谷区砧5-2-1)

交 通：新宿より小田急線で祖師ヶ谷大蔵駅または成城学園前駅下車

申込み：

①大会参加申込み締切り：2004年5月31日(月)

②参加諸経費振込締切り：2004年5月31日(月)

③研究発表申込み締切り：2004年5月31日(月)

④発表論文集原稿締切り：2004年7月10日(土)

大会のテーマは「現実生活と心理学」とし、現実社会の中で心理学を応用して仕事をしておられる最先端の方々のご講話や発表をお聞きしながら、応用心理学の将来を考える糧にさせていただきたいと思えます。したがって、従来と発表形式を少し変更して実施したいと思っております。

発表はパネル発表(口頭発表は無し)、トーク・イン(個人発表で多くの方から意見がいただきたいと望まれる方)、ラウンドテーブル(特定のテーマを数人で研究しており、その成果についてディスカッションを希望される方)、自主シンポジウム(特定のテーマについて別々に研究している者がその成果を持ち寄ってディスカッションすることを希望される方)とし、講演、特別講演、公開講演、大会企画シンポジウム、研修会(研修委員会企画)等を考えています。

また、若手研究者の参加を多くしたいので、大会参加費を可能な限り安くしようと考えています。各大学の大学院の院生にも奮って参加・発表するよう周知願えれば幸甚です。

なお、これをもって第1号通信にさせていただきます。

(日本大学商学部教授)

倫理綱領作成委員会からの報告

委員長 藤田 圭一

日本応用心理学会倫理綱領(案)が第70回大会
時の理事会ならびに会員総会において承認されまし

た。以下に、その全文を掲載致します。なおこれをもちまして、倫理綱領作成委員会の活動は終了致しました。

(城西大学女子短期大学部教授)

日本応用心理学会倫理綱領

前文

応用心理学は、心理学の諸分野における研究の方法や成果を、現実社会における実践的な諸領域に応用することを目的としている。日本応用心理学会会員は、応用心理学に関係するあらゆる分野のルールを遵守し、すべての人びとの基本的な人権および尊厳を認め、諸活動の対象となる人びとの生命・人権・人種等を尊重し、もってわが国の文化・福祉・平和の向上発展に貢献しなければならない。また他者がこのような規準を侵したり、自らの行為が他者によって悪用されることを黙認してはならない。

以上の精神に基づき、以下の条項を定めることにする。

1. 責任の所在

本学会会員は、自らの行う諸活動が人びとに与える影響の大きさを十分に認識し、社会的責任と自覚を持って取り組まなければならない。そのためには、常に自己研鑽に努め、自らの資質と技能の向上を図り、学問の発展と社会的貢献に寄与していくものでなければならない。

2. 人権の尊重

本学会会員は、日本国憲法および国際人権規約に基づき、ウィーン宣言(1993年6月25日 国連世界人権会議採択)を視野に入れるなどして、自らの研究や実践活動の対象となる個人や組織、社会に対して常にその尊厳を尊重しなければならない。

1) 個人のプライバシーを尊重し、基本的人権や社会的規範を侵す行為を行ってはならない。

2) 精神的・身体的な危害を加える行為を行ってはならない。

3. 説明と同意

本学会会員が、研究のための実験・調査・測定等、また組織活動・臨床活動・教育活動等の実践活動を行うときには、その対象者に事前に文書あるいは口頭で十分な説明を行い、同意を得なければならない。

1) 事前に説明を行うことができない場合には、事後に十分な説明を行う。

2) 研究または諸活動の対象者が判断できないときには、その代理の人に説明を行う。

3) 研究または諸活動の対象者に、その意志に基づいて参加の中断あるいは拒否ができることを説明する。

また、それによって対象者が不利にならないことを説明する。

4. 情報の管理

本学会会員は、研究または諸活動の透明性を確保し、得られた情報を厳重に管理し、社会規範の範囲を超えて他に漏らしてはならない。また、得られた情報を、本来の目的以外に使用してはならない。さらに、情報の管理に関して、他者からの批判を受けられる体制を整えなければならない。

5. 公開に伴う責任

本学会会員が行う研究や諸活動は、社会への貢献を考えるとともに、応用心理学の学問の自由と発展のために常に真摯な態度で臨むものでなければならない。また、その公開にあたっては、対象者のプライバシーを守り、苦痛や不利益を与えたり、社会的規範に反するものであってはならない。成果の公開については、本学会会員が自らの責任において常に慎重でなければならない。

本学会会員は、本学会が定める倫理綱領を十分に理解し、遵守しなければならない。また、常に倫理に基づいて行動するように努めなければならない。

本学会倫理綱領の運用に関しては、別に細則を定める。

機関誌編集委員会より

委員長 荻野 七重

●第25回国際応心参加者投稿論文募集について

すでにお知らせしたとおり、このたび、国際交流委員会の発案により、来年度発刊を目的として、第25回国際応用心理学会議に参加した本学会企画のシンポジウムおよび本学会会員の一般発表論文の英文による特集号を発行することになりました。ただいま投稿論文を募集しています。奮ってご投稿ください。なお、先のお知らせには、投稿の要領、申込書が付されておりますが、紛失された方は、機関誌編集事務局にお申し出でください。お送りいたします。締切り等に関する概略は次の通りです。

申し込み締切り：2003年11月30日

(申し込み締切り日のみ延期しました)

投稿原稿締切り：2004年5月10日

申込書・投稿論文送付先：〒187-8570 東京都小平市小川町1-830 白梅学園短期大学心理学科(荻野研究室) 機関誌編集事務局

(問合せ先)：E-mail ogino@shiraume.ac.jp

FAX 042-349-7373

●「応用心理学研究」30巻発行に向けて

年間に2冊の発行は順調に進んでいます。10月末に29巻1号、年明けに29巻2号の発行を予定しています。30巻へ向けて沢山の方の投稿をお待ちしています。

(白梅学園短期大学教授)

認定「応用心理士」認定審査委員会 からのお知らせ

委員長 馬場 房子

2002年度の総会で本学会会則および「応用心理士」の認定資格要件の一部が改正されました。それを受けまして、「資格申請の手引き」第4版を発行し、全会員に配布しました。

認定「応用心理士」平成14年度後期分登録者は、7名、平成15年分新規登録者は、28名でした。なお、平成15年9月30日の登録者は222名、失効者11名となっております。12ページの名簿をご参照ください。

資格要件を有しながら、まだ認定「応用心理士」の資格を取得されていない方は、後期分の受付を10月1日から11月30日まで行っておりますので、ぜひ申請手続きをしてください。「応用心理士」の資格要件は、次の通りです。

基礎的要件として、本学会に正会員として入会後満2年を経過し、現在会員であること。さらに、次

のいずれか1つに該当し、応用心理学の専門職としての資格があると認められる人。

(1) 学校教育法に定められた大学において、心理学専攻またはこれに準ずる学科を卒業している人。

(2) 『応用心理学研究』に1件以上の研究論文を発表した人、または年次大会で2件以上の研究発表をした人。

(3) 認定審査委員会が応用心理学と関係があると認めた専門職で、3年以上の経験を有する人。

(4) 応用心理学と関係がある職で3年以上の経験を有し、「研修会」に5回以上参加した人。

「応用心理士」として認定されますと、認定証と認定書(カード)が交付されます。この認定証は、本学会の会員である間は有効で、履歴書等に「応用心理士」であることを記載することができます。

申請書類が手元にない場合は、学会事務局(国際文献印刷社内)に御請求ください。無料でお送りします。

(亜細亜大学経営学部教授)

研修委員会からのお知らせ

委員長 林 潔

今回の第70回大会では、大村、西川両先生による2つの研修会が開催されました。

来年9月に東京・世田谷の日本大学商学部で開催される第71回大会の際も、大会の期間中に2つの研修会を開催する計画が進行しております。具体

的な内容につきましては逐次お知らせ致します。

研修委員会主催の研修も、今年から「応用心理士」資格取得のための条件の一つとして位置づけられました。知識の変動の大きい時代です。来年開催される学会としては3回目になる研修会も、ご予定の一つにされますようご案内申し上げます。

(白梅学園短期大学教授)

平成 15 年度日本応用心理学会 学会賞・奨励賞選考を終えて

委員長 垣本 由紀子

岡村理事長の下、新体制がスタートし、おそれおおくも学会賞・奨励賞の委員長を仰せつかった。委員は、坂野名誉会員、林潔先生、荻野編集委員長、浮谷事務局長及び私の5名である。大会当日の授賞式に間に合うよう逆算すると、委員会として即行動することが求められ、のんき者の私は大いにあわてた。

5月中旬に理事及び名誉会員に「学会賞・奨励賞候補者推薦依頼」をお願いし、6月上旬までに候補者推薦状の提出のお願いをした。今回は例年になく？多くの推薦を頂き名誉会員及び理事各位には心から感謝したい。

選考プロセスは、各推薦者から提出された候補者に関する資料を委員各位に事前に配布し、十分に検討していただいた上、第1次選考委員会を7月19日に開催し、かなりの時間を掛けて、学会賞及び奨励賞の候補者を選考委員会として決定した。第1次選考後、8月2日の常任理事会で審議事項として第2次選考が行われ、選考委員会の案どおり承認された。最終的には、9月5日理事会の席上で決定され、下記の2名の方が、受賞された。

学会賞：小野公一氏 亜細亜大学教授

受賞対象 著書「キャリア発達におけるメンターの役割—看護師のキャリア発達を中心に—」白桃書房、2003年

奨励賞：田中堅一郎氏 日本大学大学院総合社会研究科助教授

受賞対象 論文「組織市民行動と組織報復行動の生起・抑制に関する連鎖的モデルの検証」、応用心理学研究、28(2)、2002

選考理由：〈学会賞〉メンターに関する研究は、こ



こ10年来、産業組織関連領域で討議されてきている課題であるが、小野氏は、早い時期から各種職業領域を対象に「メンター」に関するきめ細かな調査研究を精力的に進めてきている。本書は、特に看護師のキャリア発達に関連し、メンターがどのようにかかわるか長年の研究をまとめたものである。看護師が実際に働く場で、誰が主要なメンターであり、メンタリングがどのように機能しているか、それがキャリア発達にどのように影響しているか実証した研究である。多くの示唆的な内容が含まれ、看護師のキャリア発達に役立てることが可能であるだけでなく他の職能においても十分活用が期待できる。応用心理学の領域において更なる活躍が期待でき、「学会賞」にふさわしいと選考した。

選考理由：〈奨励賞〉職場における組織機能を促進する組織市民行動と組織を機能不全にする報復行動を取り上げ、職場における公正さが職場における気分に影響を及ぼし、それが組織市民行動及び組織報復行動に影響することを究明したもので、労働環境改善に資する心理的要因を分析したところに研究の意義があり、今後の活躍が期待できる。(推薦者の推薦文から)

お二方の、今後の更なるご活躍を祈念し、報告とさせていただきます。

(実践女子大学教授)

日本応用心理学会 アテネ (2006年) への始動 —国際交流委員会報告—

委員長 長塚 康弘

●国際応用心理学会議 (IAAP) への準備について

国際応用心理学会議 (25回) が開催されたのは昨年 (2002年) 7月でした。盛夏、酷暑のシンガポール、しかし完全冷房のシンガポール、そして壮大・豪華な会場などが思い出されます。日本からも本学会会員の皆さんをはじめ大勢の方々が参加されました。

ご案内の通り、この会議では本学会提案のシンポジウム “Problems of researches, practices and solutions in applied psychology in Japan: Past, present and future” が invited symposium として受理されました。同シンポジウムはシンポジスト (帝塚山大・蓮花、中京大・向井、心理教育研・福原、駒沢大・佐々木の各氏) ・コメンテータ (信州大・内藤氏、シンガポール Nair 女史 (会議会長)) のご協力のもとに整然と進行され、各氏の行き届いたご準備と当日の熱意ある presentation により成功裡に終了しました。関係者として喜んでおりますが、このような成果は開催に至るまでの理事会の皆さんの、国際応用心理学会に対する本学会としての寄与への強い意欲と参加者への一致した積極的なご支援とによって得られたものであると convener を務めさせていただいた者として感謝の念をもって記します。

その後の理事会では、日本応用心理学会として初めての組織的参加となったこの経験を次回の会議にも生かし、2006年に予定されている第26回アテネ会議にも本学会として参加することが話し合わせ、早速その準備に着手することになりました。

本年の理事会では国際交流委員会の提案にもとづき、(1) アテネ会議にも日本応用心理学会としてシンポジウムを提案する、(2) テーマの原案は国際交流委員会で検討を進め、理事会で成案を得る、(3) シンガポール大会時の準備経過を参考にして、2004年夏頃までにできるだけ具体案を用意することが決

まりました。

申すまでもなく次期会議への参加については会員の皆さんのご支援、ご協力をいただかなければなりません。会員の皆さん、応用心理学研究者としての4年に一度の国際交流の場、国際応用心理学会に臨みましょう。本学会では皆さんの参加につきましてもお役に立ちたいと考えております。お気づきの点につき皆さんのご意見をどうぞお寄せください。

●第25回国際応用心理学会議 (シンガポール) の取りまとめについて

前後しましたが、シンガポール会議での本学会提案のシンポジウムのほか本学会会員の発表論文 (コメントを含む) はすべて論文としてまとめ、機関誌に掲載することが本委員会の提案をもとに編集委員会で決定されました。特集とするか特集号 (別冊) とするかについては編集委員会の今後の検討に委ねることになりました。追って会員の皆さんにご案内が参ることになっております。

●国際交流活動の具体化について

本委員会では本学会における国際交流委員会の役割、具体的活動の方について意見交換が行われました。意見の概略はおよそ次の通りです。

- ヨーロッパを含む4年毎の国際応心では間隔が長すぎる。アジア地域あるいはオセアニア地域に狭めてアジア応用心理学会のようなものを立ち上げてはどうか。
- アジアでの共同研究の可能性を探りたい。そのために各国の心理学会会長クラスの人に「貴国の応用心理学」などのテーマで寄稿を依頼する。応用心理学会があればそちらに転送してもらう。情報収集を行ってアジア応用心理学関係研究者間の交流の促進を図り、アジアに根ざした応用心理学発展の機会を作る。
- 来日 (在留) 中の外国応用心理学研究者 (大学院学生を含む) を招いて研究発表会を開催する。本学会会員の英語による発表を含めるなどにより交流の trials を重ね、情報の収集と発信に努める。
- その他、海外における応用心理学研究の動向についての情報収集も行う。

(新潟中央短期大学学長)

学会賞を受賞して

小野 公一

このたびは大変名誉ある賞を頂きありがたく思っております。先日の大会では、委員長の垣本先生より過分のご評価をいただき、本当に恐縮いたしました。

賞の対象になりました『キャリア発達におけるメンターの役割』(白桃書房 2003)のメンターというテーマは、個人的な関係を通じた働く人々のキャリア発達支援に関するもので、この8年ほど、質問紙法や面接法を用いて取組んでまいりました。

この研究はメンター研究の先駆者である日本経営協会の山口祐子先生に教えを請うことからスタート

して関口和代会員(東京富士大学専任講師)とともに勉強を始めました。その後、私は職務満足感やソーシャル・サポートとの関連から、関口さんは公式のメンターの可能性を探るといった異なった展開をたどりました。それを通して、この領域の広がりや深さを知るとともに、人間関係の影響の複雑さと大切さを、実感いたしました。

今年はじめに、研究のまとめを出版し、関口さんが研究者として一人立ちしたので、なんとなく一段落という気分になっておりましたが、今回このような賞を戴き、初心に帰り、「研究」なる言葉をポケットの隅から引きずりだし、研究活動にも、邁進したいと思っております。

(亜細亜大学教授)

奨励賞を受賞して

田中 堅一郎

この度、わたくしが日本応用心理学会における2003年度の学会奨励賞の受賞者となりました。正直に告白しますが、わたくしは応用心理学研究には過去2回(20号、28巻2号)、拙稿を掲載していたものの、ここ8年間、大会とはご無沙汰しておりました。このように応用心理学に対して不誠実だったわたくしが同学会より表彰されるというのは、何か大変申し訳ない気がいたします。誠に恐縮の至りですが、学会役員の方をはじめ、会員の皆様方に心より感謝申し上げます。謹んで受賞させていただきます。

さて、受賞研究題目(「組織における公正」)にもございますが、わたくしは修士課程の大学院生のところから、公正あるいは公平な報酬の分配方法を社会心理学の視点から研究して参りました。学位を取得

するまでは、公正あるいは公平な分配方法を規定するのはどういった要因が考えられるかを研究課題にしていました。ここ10年間におきましては、特に組織や職場の問題に絞って研究を行っております。思えば10年前には私以外に同様の課題を研究していた方は、日本では(私の知る限り)2、3名しかおられませんでした。けれども、ここ最近では若手研究者の中に組織における公正の問題を研究課題に選ぶ方が出てきました。心強く感じています。最近のわたくしの関心は、組織における公正あるいは不正がどのように従業員の行動や態度に影響を及ぼすかという点に移ってはおります。具体的には、組織における公正が達成される(あるいは達成されない)場合、従業員の行動はどうか、ということが目下の研究課題です。今回の受賞を励みに、今後とも「組織における公正」をキーワードに多面的な研究を進めていく所存であります。

(日本大学大学院助教授)

日本応用心理学会第70回 大会に参加して

片岡 大輔

流通科学大学にて9月5日・6日に開催された本大会は、今回とくに第70回という区切りとなる大会でした。参加者は400人を超し、大会プログラムは、個人発表に加え、シンポジウム・記念/招待講演・若手研究者ワークショップ・学会主催の研修会と、実に充実したものでした。会場のキャンパスは、民間企業以上と思える設備が整い、発表や講演

がとてもしやすいものでした。懇親会もたいへん豪華でした。大会期間を通じてスムーズに運営が行われ、心地よく参加することができました。とくに特別記念講演の中村桂子先生と特別招待講演の中島尚志先生のお話は、応用心理学の研究をするにあたって、新たな知見を与えていただけのものであったと思います。委員長の森下高治先生をはじめ、スタッフの方々のご尽力を賞賛・感謝する次第です。

今回私は企業内で心理学を応用している立場から、「人事・教育目的でのアセスメントツールの開発と活用」というワークショップ(小講演と討議)

を開催いたしました。テーマを絞って比較的じっくりと話題を提供できたかと存じます。セミナーハウスの宿泊つきで実施した他のグループでは、午前3時まで活発な討議がされたものもあると聞きました。研究分野を同じにするもの同士で深い討議ができる機会が提供されたことは、たいへん有意義であったと思えました。

今後ともぜひ(若手に限らず)、今回の産業と発達分野に加えて応用心理学の各フィールドでのワークショップを、大会で設定していただけたらと希望します。専門学会が数多く設立される昨今、今回の学会に参加して、伝統ある応用心理学会が一層の発展をしつつあることを強く感じました。

((株)日本能率協会マネジメントセンター)

日本応用心理学会第70回 大会に参加して

道城 裕貴

私は、9月5日・6日に流通科学大学で開催された日本応用心理学会第70回大会に今年始めて参加しました。参加者数が400名を越し、また分野は多岐に渡っており、非常に大きな学会で驚きました。しかし、そういった中でも学会事務局の素晴らしい配慮によってプログラムはスムーズに進行していました。

私は1日目に「フィードバックと目標設定が課題パフォーマンスに及ぼす効果」と題したポスター発

表をさせて頂きました。始めて参加するということもあり不安もあったのですが、様々な分野の方が発表を聞きに来て下さいました。発表の内容としては、将来的に企業などの組織において応用されることを視野に入れた実験室実験だったので、基礎実験の方に限らず、企業などの応用分野や心理学以外の分野(経済学など)の方が聞きに来て下さいました。分野が違う方とコミュニケーションができ、また自身の研究について発表できるというのは余りない機会ですので、非常に良い経験となりました。また、中村桂子先生により「生命誌」の視点からの特別記念講演があるなど、心理学とは異なった視点での分野に触れることが出来ました。やはり、応用心理学会の利点というのは、分野の多様性であると思います。心理学以外の分野や、心理学の中でも理論の違いや、基礎、応用の違いを越えた上でのコミュニケーションは、自身の研究やまた心理学の分野としての成長を促すものだと思います。

また、今回の学会では「若手研究者」ワークショップも開催されていました。私は残念ながら参加できなかったのですが、若手研究者が気軽に参加できる非常に良い企画だと思いました。こういったことを通して、学生を含む若手研究者の学会参加やそこでの意見交換に対する敷居が低くなれば良いと思います。

(関西学院大学大学院文学研究科
心理学専攻博士前期課程1年)

研究室紹介(6)

常磐大学心理学研究室

正田 亘

常磐大学心理学研究室は1983年(昭和58年)に開設された。人間科学部がこの年に新設され、人間関係学科、コミュニケーション学科の2学科でスタートしたが、その後、組織管理学科が増設された。心理学研究室は人間関係学科の心理学専攻に対応している。常磐大学は開学当初、人間科学部のみであったが、現在、国際学部、コミュニティ振興学部の3学部から構成されている。

1989年大学院人間科学研究科修士課程、1993年には博士後期課程がそれぞれ設置され、数多くの大学教員、研究者を社会に送りこんでいる。心理学専攻の学生定員数は一学年約50名、専任教員は現在

5名である。正田亘教授(産業・組織心理学、人間工学)、伊田政司教授(計量心理学、応用実験心理学)、森山哲美教授(行動分析学)、渡邊孝憲教授(人格心理学、臨床心理学)、伊東昌子助教授(認知心理学)の5名が現在のスタッフであるが、2004年4月から人間科学部の学科が改組され、新たに心理教育学科、現代社会学科、コミュニケーション学科で発足することになった。この改組に伴い、心理教育学科は基礎・応用心理学コース、カウンセリングコース、教育学コースの3コースに分かれ、それぞれのコースに心理学、カウンセリング、教育学関係の専任教員が着任することになっており、スタッフ

とカリキュラムの充実がはかられる。

心理学研究室の施設や設備は比較的充実している。知覚過程の研究、思考や人間工学の研究、学習や個人差の研究を行うための実験室がそれぞれあり、また動物の行動過程を調べる動物心理学実験棟が独立に設置されている。

このほか、常磐大学の特徴として、心理学専攻以外の学科や他学部、短期大学に心理学関係の教員が

在籍しており、学部や大学院の講義を担当し、それぞれの科目を聴講できるシステムを持っていることである。一例をあげれば、長井進教授のカウンセリング心理学、鈴木康平教授の発達社会心理学、西澤弘行助教授の言語心理学、宮本聡介助教授と佐々木美加講師の社会心理学等である。

(常磐大学人間科学部教授)

会員の声

スポーツ実戦と応用心理学の役割

中島 豺

2003年大阪世界柔道選手権大会を観戦しての感想を述べたいと思います。

日本選手団の男子のメダル数は4つ、女子は5つ、男女合わせて9つであった。その中でも特に注目したいのは何と云っても女子48kg級の田村亮子選手であろう。15歳(1988年)で初デビューして以来15年間に渡り自己体重を48kg級でキープし、国内外のビッグ大会を勝ち続け、世界柔道選手権大会6連覇の偉業達成には日本だけでなく世界中の人々が絶賛していることである。

では、チョットその謎に迫ってみたいと思います?

大会前のインタビューで彼女が云ったこんな言葉があります。

「武道(柔道)とは、「心」「技」「体」の総合されたものであるとよく言われますが、わたしはそれに「頭脳」をプラスしたいと思います。」

「心」・「技」・「体」and「頭脳」。

私自身何だか変な言葉だなあと感じておりましたが、実際に彼女は9月14日の決勝戦において言葉通りに実践してくれました。

「2回戦から登板の田村選手は順調に勝ち進み、準決勝戦で中国の高選手に残り1秒で背負い投げで1本勝ち。決勝の相手はジョシネ選手(フランス)。ジョシネ選手は田村選手の奥襟をがっちり掴

み動きを封じる。ともに思い切った技が出ないまま、ジョシネ選手に指導、さらに両者に指導が与えられる。中盤に入り田村選手は背負い投げを返され、ヒヤリとさせられる場面もあったが、何とか腹ばいになり逃れた。残り2分、今度は田村選手に指導が与えられ、両選手同点となる。目まぐるしい攻防が続き、田村選手はジョシネ選手の両襟を取り、激しくあおる。ジョシネ選手はたまらず膝をつく。残り30秒、ジョシネ選手に3度目の指導、そのまま試合終了となり、田村選手が勝利への執念をみせてくれた戦い振りであった。」田村選手の決勝戦の戦い振りは、まさに、残り30秒の頭脳的プレーの勝利であったと考えられます。

男子100kg級のチャンピオン井上康生選手は大会後のインタビューで、田村選手に対して「すごい偉大な柔道家であり、あれだけ強い気持ちを持って、勝ち続ける精神構造を見習いたいものである。」と述べています。

このように、いまやスポーツ界では心理学の応用は常識のことであり、競技力向上の為には欠かすことのできないものであると推察されます。

「スポーツ心理学はスポーツを研究対象にした応用科学の一つと言えます。」(スポーツ心理学Q & A)

今後は、更なる競技力向上を目指し、本学会において応用心理学的研究を重ね、すべてのスポーツや柔道指導に応用し努力してみたいと思っております。

(国土館大学教授)

日本応用心理学会 委員会体制

(任期: 2003年4月1日~2006年3月31日)

(◆は常設委員会、◇は臨時委員会)

◆機関誌編集委員会

委員長 荻野 七重

委員 細江 達郎、稲毛 教子、垣本 由紀子、神作 博、松浦 常夫、内藤 哲雄、所 正文

◆認定「応用心理士」認定審査委員会

委員長 馬場 房子

委員 森下 高治、蓮花 一己、田之内 厚三、玉井 寛、山本 寛

◆学会賞・奨励賞選考委員会

委員長 垣本 由紀子

委員 林 潔、荻野 七重、坂野 登、浮谷 秀一

◆国際交流委員会

委員長 長塚 康弘

委員 林 潔、垣本 由紀子、松浦 常夫、内藤 哲雄

◆シンポジウム委員会

委員長 松浦 常夫

委員 南 隆男、大橋 信夫、鈴木 由紀生、所 正文

◆研修委員会

委員長 林 潔

委員 大坊 郁夫、外島 裕、福井 嗣泰、松田 浩平、森下 高治、嘉部 和夫

◆広報委員会

委員長 藤田 主一

委員 大坊 郁夫、林 潔、田之内 厚三、外島 裕

◇諸規程整備検討委員会

委員長 浮谷 秀一

委員 藤田 主一、森下 高治、荻野 七重

日本心理学諸学会連合 理事 岡村 一成、稲毛 教子

認定「応用心理士」名簿

(2003年9月30日現在)

登録番号	氏名	登録番号	氏名	登録番号	氏名	登録番号	氏名	登録番号	氏名
S01	森 重敏	001	岡村 一成	057	大坪 幸實	114	松浦 常夫	168	谷澤 田鶴子
S02	田中 熊次郎	002	田之内 厚三	059	外村 近	115	田中 道弘	169	北村 久光
S04	黒田 正典	003	渡部 章	060	長谷 俊彦	116	佐藤 秋子	170	長崎 純子
S05	松村 康平	004	藤田 圭一	061	大瀧 法子	117	大友 達也	171	久能 由弥
S06	永澤 幸七	006	池田 恵利子	062	林 潔	118	越河 六郎	172	梶原 隆之
S09	奥沢 良雄	007	高嶋 正士	063	飯田 穎男	119	松山 依子	173	山本 陽子
S10	肥田野 直	008	浮宮 秀一	064	斎藤 永子	120	垣本 由紀子	174	樋上 敬雄
S11	中川 大倫	009	小宮 敏克	065	鈴木 由紀生	121	宮本 美沙子	175	佐藤 嘉晃
S12	太田垣瑞一郎	010	廣島 克佳	066	大久保 康彦	122	菊池 哲彦	176	谷川 弘治
S13	駒崎 勉	011	久保田小枝子	067	笹野 完二	123	上野 轟	177	浅沼 恵
		012	高石 光一	068	玉井 寛	124	土屋 明夫	178	木村 たき子
		013	中 淑子	069	稲本 俊輝	125	手塚 太郎	179	高野 真吾
		014	大村 政男	070	加藤 博己	126	川邊 譲	180	宮島 直子
		015	鈴木 啓之	071	加藤 基子	127	渡辺 昭一	181	上原 シゲ子
		016	中原 弘之	073	菊池 清勝	128	稲毛 教子	182	荒木 美知子
		017	石川 雄三	074	深田 高一	129	坂野 登	183	羽田 千恵子
		018	松尾 典子	075	村松 玲美	130	細江 達郎	184	小林 勝年
		019	小杉 常雄	076	佐伯 典彦	131	福原 眞知子	185	森下 高治
		020	小尾 隆一	077	手島 茂樹	132	大山 俊男	186	中村 忠生
		021	遠藤 定雄	078	馬場 房子	133	大橋 信夫	187	杉本 裕司
		022	箭内 敏夫	079	黒田 喜久二	134	神田 久男	188	横田 克哉
		023	沢宮 容子	081	小林 幹児	135	荻野 七重	189	堀田 美憲
		024	藤澤 明	082	平野 馨	136	山本 寛	190	杉野 之映
		025	金丸 徳久	083	神作 博	137	大島 貞夫	191	若松 直樹
		026	岸本 英男	084	内海 滉	138	蓮花 一己	192	横山 敬子
		027	大塚 一郎	085	北川 睦彦	139	鈴木 芳子	193	長町 三生
		028	坂口 哲司	086	佐々木 弘明	140	吉田 悟	194	嶋野 重行
		029	加古 明子	087	高橋 宣昭	141	柳沢 淳子	195	安永 俊一
		030	中尾 勢津夫	088	正田 亘	142	下川 建次	196	布施 淳子
		031	横田 愛子	089	西田 順造	143	竹岡 俊一	197	橋川 真彦
		033	洞内 祥次	091	長田 一臣	144	田中 真介	198	戸沼 文子
		034	安藤 詳子	092	藤川 美枝子	145	今林 俊一	199	原田 ゆかり
		035	中尾 久子	093	森下 節子	146	新小田 春美	200	渡辺 ナツ子
		036	安部 保子	094	松下 由美子	147	岡田 和美	201	熊倉 朋子
		037	和田 全弘	095	稲越 孝雄	148	田中 美貴	202	鯉沼 勝
		038	高橋 哲也	096	鈴木 浩明	149	加久 綾	203	佐々木 美加
		039	中村 昭之	097	中田 栄	150	向井 希宏	204	名張 淑子
		040	恩田 彰	098	藤井 博英	151	伊田 行秀	205	下田 米啓
		041	草野 美根子	099	樋口 日出子	153	菊地 藤吉	206	守島 恵
		042	松本 洸	100	馬場 昌雄	154	矢口 一郎	207	田名場 忍
		043	片山 義弘	101	望月 稔	155	森 千鶴	208	白井 浩司
		044	小野 紘昭	102	田野 洋一郎	156	軽部 幸浩	209	菅野 裕
		045	鈴木 秀明	103	石井 康弘	157	森田 敏子	210	高橋 浩子
		046	三宅 洋一	104	藤沢 伸介	158	石原 典忠	211	高橋 良博
		047	山本 勝則	105	深沢 伸幸	159	高木 宣行	212	渥美 綾乃
		048	下司 昌一	106	後藤 嘉余子	160	外島 裕	213	片岡 健二
		049	長谷川孫一郎	107	橋元 慶男	161	田中 昌人	214	藤岡 延樹
		050	大塚 博保	108	中村 完	162	田中 杉恵	215	秋山 俊夫
		051	今井 省吾	109	清水 増三	163	山本 弥栄子	216	加藤 日出子
		052	本田 幸八	110	伊藤 恭子	164	廣瀬 清人	217	岡崎 真理子
		054	佐藤 怜	111	兼久 満	165	田山 正美	218	南 隆男
		055	齋藤 勇	112	武田 繁好	166	増田 公男	219	大畠 孝子
		056	小林 成光	113	川本 利恵子	167	横内 廣夫	220	小野 公一

平成 15 年度 (2003 年) 日本応用心理学会公開シンポジウム

委員長 松浦 常夫

テーマ: 高齢者の交通事故防止対策: 再教育の方法をめぐって

開催日時: 平成 15 年 11 月 22 日 (土) 14 時~17 時

会場: 東京富士大学本館 (〒161-8556 東京都新宿区高田馬場 3-8-1)

(交通) JR 山手線—「高田馬場駅」徒歩 3 分

地下鉄東西線—「高田馬場駅」徒歩 3 分

西武新宿線—「高田馬場駅」、「下落合駅」徒歩 3 分

企画・司会

松浦常夫 (自動車安全運転センター)

話題提供者

1 蓮花一己 (帝塚山大学人文科学部)

高齢者の運転行動に見られる問題点を最近の研究から指摘する。

2 太田博雄 (東北工業大学工学部)

高齢運転者の運転に対する自信過剰等の問題点をただすための再教育手法の可能性について述べる。

3 鈴木由紀生 (茨城大学人文学部)

高齢歩行者の事故分析等から得られた知見と事故防止対策を述べる。

4 石川淳也 (中央自動車学校)

高齢運転者の高齢運転者講習等の対策について、現場の立場から述べる。

指定討論者

1 石田敏郎 (早稲田大学人間科学部)

2 森清善行 (大阪学院大学経営科学部)

第 70 回大会公式記録 (講演者の変更および取り消し)

日本応用心理学会第 70 回大会準備委員会

第 1 日 9 月 5 日 (金)

ポスター発表について (取り消し)

当日、発表者が欠席のため、下記発表は発表取り消しと判断致しました。

A-1 幼児期における泥だんご作りの発達の研究

近畿大学豊岡短期大学 幼児教育学科 穂原 弓子氏

C-6 チーム評価に関する研究—百貨店における調査—

亜細亜大学大学院 経営学科研究科 山崎 文子氏

第 2 日 9 月 6 日 (土)

ワークショップ「小講演と討議」について (講演者の変更)

人事・教育分野でのアセスメントツールの開発と活用は、中島氏が勤務先の都合で出席が出来ない旨申し出があり講演者を下記演者に変更、大会準備委員会ではこれを止むを得ない理由と判断し、変更を承認致しました。

当初予定の講演者 B: 中島 彩花氏 ((株)日本経営協会総合研究所) は、講演者 B: 西田 豊昭氏 (宇部フロンティア大学) に変更。

目 次

理事長に就任して	岡村 一成	1	学会賞を受賞して	小野 公一	8
第 70 回大会を振り返って.....	森下 高治	2	奨励賞を受賞して	田中堅一郎	8
2003 年度日本応用心理学会名誉会員.....		3	日本応用心理学会第 70 回大会に参加して	片岡 大輔	8
日本応用心理学会第 71 回大会のお知らせ	嘉部 和夫	3	日本応用心理学会第 70 回大会に参加して	道城 裕貴	9
倫理綱領作成委員会からの報告	藤田 圭一	4	研究室紹介 (6) 常磐大学心理学研究室	正田 亘	9
日本応用心理学会倫理綱領		4	会員の声 スポーツ実践と応用心理学の役割	中島 隼	10
機関誌編集委員会より	荻野 七重	5	日本応用心理学会 委員会体制		11
認定「応用心理士」認定審査委員会からのお知らせ	馬場 房子	5	認定「応用心理士」名簿		12
研修委員会からのお知らせ	林 潔	5	平成 15 年度 (2003 年) 日本応用心理学会公開		13
平成 15 年度日本応用心理学会学会賞・奨励賞選考	垣本由紀子	6	シンポジウム	松浦 常夫	13
日本応用心理学会アテネ (2006 年) への始動		7	第 70 回大会公式記録.....		14
—国際交流委員会報告—	長塚 康弘	7			

日本応用心理学会事務局
 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8
 (株)国際文献印刷社内
 電話 03-5389-6491 FAX 03-3368-2822
 日本応用心理学会広報委員会